

踏 み 跡 < My mountains >

丹沢	葛葉川遡行(葛葉川本谷から表尾根へ)	No.063
----	--------------------	--------

昭和41年5月29日

ピンからキリまで多種多様な沢を有する丹沢の沢の中で、この沢は初心者向けと言われており沢登り一年生の私としては手頃なところと思われる。

葛葉川は三の塔に流れを発生し、扇状地を作りながら秦野盆地に流れ込んでいる。

四月以来約二ヶ月ぶりの山行。スランプ時の二ヶ月は体力も気力も低下させてしまっていて、家を出る足もあまり軽くはない。ましてや、悩み事のさなかのことゆえ半ば億劫とも言える早朝の出発。あまり考えすぎて心も体も疲れが出ているため、少しのんびりと春の景色でも眺めて見ようかと思い、山旅に立った。

どういう経緯だったか忘れたが、会社の先輩 T氏を誘った。

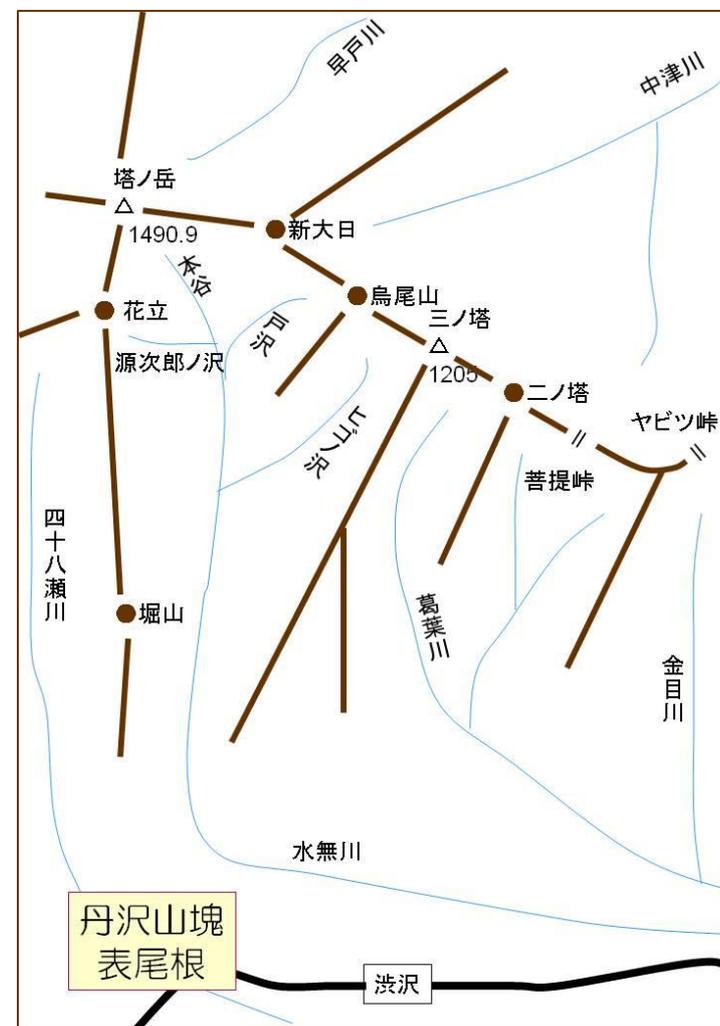
新宿発6時46分、日曜の朝の小田急は相変わらず混雑している。大秦野駅からバスで菩提へ。(30円)

丹沢は近くていい。7時前に新宿を出ると8時半には麓の菩提に着いてしまう。「旅」という感覚が失せてしまう近さである。

9時、葛葉川の出合いでもう腹の虫の騒ぎに抗しきれず食事。朝の光を浴びて沢の水音を聞きながら握り飯を頬ばっていると、体の中に詰まっている考え事の種が洗い流されて行く感じがしてきた。

9時半、遡行開始、ワラジは使わず、登山靴のままで行くことにした。

F10(板立の滝)、F11(曲がりの滝)以外はほとんど苦もなく登ることができた。この二つの滝も、濡れることをいとわずに水中にホールドを取れば問題なく登りきることができたに違いない。ガイドブックの説明どおり、初の沢登りにはおあつらえ向きようだ。



葛葉川は二時間ほどで終わり、大きなガレを登り表尾根に飛び出した。今までの耐えることのない水の流とは打って変わって「人の流れ」でござった返している。三ノ塔(1205m)11時30分、二度目の食事と大休止。12時30分出発、新大日岳付近では行列を作って順番待ちをする始末。山を下りぬうちにもう現実の世界に引き戻された感じががっかり。塔ノ岳(1491.9m)を経て大倉尾根(通称: バカ尾根、大倉ハイウェイ、大倉スカイライン)を下り、大倉に15時30分到着。降ろし忘れた鯉幟がはためく農家の間をバスで渋沢駅へ。渋沢駅着16時30分。二ヶ月ぶりということと朝が早かったこととで、電車に乗ったらどっと疲れが出てきてすぐに眠ってしまった。

以上

(修正・更新:2023年11月)